

「アフリカ政策市民白書 2006」(白書第2号)の「第5章 5節 セネガル NGO による評価」において事実誤認がありましたので、下表のとおり訂正させていただきます。調査にご協力いただいた DANKA DANKA さんはじめ関係者の皆様にお詫び申し上げます。

2008年3月 TICAD 市民社会フォーラム

掲載力所	誤	正
84 ページ 31 行～85 ページ 1 行	当時フィリピンに在住していた設立者は、セネガル南部における武装紛争と住民の困窮を目の当たりにし、住民が連携し自らイニシアティブを取るための支援を行うことを決意した。	当時フィリピンで森林伐採の社会学調査を終えた設立者は、セネガル内陸国ガンビアにおいて世界的に流行り始めた西アフリカの伝統太鼓ジェンベの素材となるディンプの木の濫獲状況を知り、住民が連携して主体的にディンプの木を再生していく仕組みを構築するための支援を行うことを決意した。
85 ページ 1～2 行	現在、ダンカダンカはコルダ州のシンチャンクンダラ (Sinthiankundara) 村 (2000 年-)	現在、DANKA DANKA はコルダ州のシンチャンクンダラ村 (2003 年-)
85 ページ 5～10 行	シンチャンクンダラ村では、ジェンベ (太鼓) の材料となるディンプの植林活動を行った。次いで、クレイサ村でも同様の活動を予定していた。しかし、村の若者との対話により、ディンプは対象地域において成長が難しく、さらにクレイサ村は、都市化の影響により農業活動が廃れ、収入を得る道が少なくなっていることが分かったため、より中長期的な視点から活動を行うこととした。	伐採現場のシンチャンクンダラ村では 5 年契約で、300 本のディンプを種から育てる試みをしている。「再生」を目的としているため、ディンプの自生地 (年間降雨量 800mm 以上セネガル南部) に限定して広めていく予定である。クレイサ村はセネガル第 2 の都市ティエスの市場に近く、活動に共感した若者たちもいるため、活動の拠点とした。この若者たちが現地スタッフとなり再生活動のモニターを担当している。資金調達のために、市場価値の高いマンゴー栽培が彼らから提案され、農地を購入、マンゴー農園を造った。収穫可能になるまでの期間、村の若者や女性たちの要望に応じて、職業訓練を行うこととした。そのため、土地を購入し、郵政省ボランティア貯金事業の助成を受けて多目的共同作業場をクレイサ村に建てた。
85 ページ 12～16 行	クレイサ村では、既存の女性グループおよび青年の活動に対し、染色や木工細工に関する職業訓練、識字教室の開催とマイクロ・クレジットの供与を行っている。染色は女性グループ 15 名を対象とし、現地ウォルフ語を教える識字教室は女性 30 名を対象に読み書きと計算を教えるほか、識字教室の担当者の知識の向上にも貢献している。	クレイサ村では既存グループの力関係に縛られることなく、DANKA DANKA の活動はすべての村人に対して開かれていることを示すために、1 年目の職業訓練は選別することなく希望者全員を無料で受け入れた。そのため、染色職業訓練の参加者は約 90 名に上った。継続の要望があり、2 年目は材料費の参加者負担を条件に行った。訓練終了後、染色を本気で収入手段にしたいと考える 15 名の女性からなる染色グループが形成されている。女性対象の識字教育が他 NGO によって行われたことがあるが、継続者は 1 名のみであった。現地スタッフ対象に日本人スタッフが現地入りの度に識字と帳簿記帳を教えているが、やはり効果が上がらないでいる。
85 ページ 17～20 行	マイクロ・クレジットは、染色および木工細工を対象に、利率 15%、返済期間 6 カ月の条件で貸付を行うこととし、これまでに木工細工の講師である若者 2 名が、それぞれ 15 万 FCFA の貸付を受け、職業訓練を実施している。	職業訓練からマイクロ・クレジットへ移行の試験的試みとして、木工訓練の 3 グループに、衣装ダンス製作のために必要な材料費をそれぞれ上記の条件で貸し付けた。村長に返済処理の権限が委ねられている。
85 ページ 20 行～86 ページ 2 行	一方、染色を行う女性グループは、貸付条件が厳格であることを理由に、マイクロ・クレジットの供与には至らなかった。	女性染色グループへのマイクロ・クレジットは、グループのマネージメント・会計能力等が育っていないため、延期されている。